

日本銀行
帯広事務所長

齊藤 徹



十勝に着任して半年が経過した。いまだに車窓から、広大な畑の中に整然と並ぶ防風林やサイロといった当地特有の風景が見えると、心動かされるものがある。夏から冬に季節が移り、まぶしいばかりの生命力あふれる景色が、何とも言えない寂寥(せきりょう)感を内包した景色に、刻一刻と表情を変えていくのを見ることが出来るのも、当地で生活していればこそその楽しみだと思ふ。

着任以来、注力していることの一つに金融経済教育がある。

これまでに何度か、学校に出席して授業をしてきたほか、PTA連合会や市民・町民の勉強会で講演をした。外部講師の方を招いた大規模講演会で司会を務めたりもした。少しでも金融に興味を持つてもらえるよう、1億円の札束の模型を持っていき、重さを体験してもらったり、小学生向けには、事務所員と協力して、すごろくゲームやクイズなどを通して楽しみながら気

にメネを取りながら受講する姿も多く見られた。ただ、受講アンケートの中に、「学校で金融の授業をやる必要はないと思う」という回答を見かけたことがある。こちらの力不足もあるだろうが、非常に残念なことと思う。

わが国の金融教育の現状を見ると、「金融教育を受けたことがある」と回答した人の割合はわずか7%と米国の20%に比べ見劣りしている。「金融知識に

の共同出資で設立された中立的公正な認可法人で、金融機関を兼業していない認定アドバイザーが教育の担い手となっている。講師派遣やイベント・セミナー開催のほか、個人向け相談事業や学校への支援事業を行っている。

「金融リテラシー」とは、経済的に自立し、より良い生活を送るために必要な「お金に関する知識や判断力」のことを言う。

上で、資産形成の重要性も高まっている。政府は、NISA(少額投資非課税制度)やDed(個人型確定拠出年金)といった制度面での措置を講じている。「長期」「積み立て」「分散」といった三つのリスク抑制策を意識しながら、取り組んでいくことが望まれる。近年、ライフスタイルが多様化している中で、みんなと同じようにやっていたら大丈夫というものではなく、自らリスク許容度を決めて取り組む必要がある。

十勝の金融リテラシー向上に向けて

づきを与える工夫をしたりしてきた。

多くの方々は、興味を持って聴講していただいております。熱心

自信がある」といった人の割合も、米国が71%だったのに対し、日本は12%にとどまっている。その中でも北海道は、2022年に行われた金融リテラシー調査における正答率が54%で全国平均の56%を下回り、47都道府県中33位になっている。

住宅資金、教育資金、老後資金といった人生の三大支出にどのように備えるかが大切であり、例えば、近年、長寿化が進む中、資産寿命をどのよう延ばしていくかなど、金融リテラシーの重要性が高まっている。さらに、SNSを使った特殊詐欺などの金融犯罪が増えている。手口も巧妙化しているの、だまされないように、正しい知識を身につけておく必要がある。

可欠のものであり、とても大切なものだが、その一方で、使いつ方を間違えると、大きなトラブルにつながるかねない。お金は私たちがより良い人生を送るためにあるのだから、お金のために人生があるのではない。お金を振り回される人生にはならないようにしたい。

こうした現状を踏まえ、昨年「金融経済教育推進機構(J-FLEC)シージェイフレック」が設立された。政府、日本銀行、全国銀行協会、日本証券業協会

計画的にお金を準備していく

十勝の皆さまが、金融リテラシーを高めることにより、より良い生活が送れるよう、今後とも金融経済教育に取り組み、地域に貢献していきたいと思ふ。

かちまい 論壇